

森田市政の

二期目を問う

質問者12人、傍聴者38人

一般質問は、年4回開催される定例会の中で行われます。ここに掲載したものは抜粋ですので、全文につきましては、会議録を閲覧されるか、市議会のホームページでご確認ください。

村上 百合子 議員

質問項目

- 1 防災対策について
- 2 図書館活用の推進について



Q 今年も梅雨入り後に全国各地で局地的豪雨が発生し、三重県などでは土砂災害が起きている。気象の変

化に対して早急な情報の伝達と対策が防災の要だと考える。市が設置している防災無線屋外拡声子局について、市民からは「どこで何が起きているのか聞き取れない、具体的な内容が聞けず取れずわからない。」との苦情がまだまだ多くある。防災無線で放送された内容を

フリーダイヤルで再確認できる自動音声応答装置の導入を願う。

A 防災無線屋外拡声子局は平成20年度に設置し、平成22年度に追加工事を行った。風向きや雨の強さなど、気象条件の影響を受けやすく、聞き取りにくいことがある。県の「防災メールまもるくん」が非常に市民に伝達できるよい手段である。

また、防災行政無線で流れた情報が電話で聞けるシステムの構築費用を補正予

算に計上した。

Q 導入するにあたっては、フリーダイヤルでお願いしたい。また、多くの市民への電話番号の周知が重要である。特に高齢者や障がい者の方に知らせたい。ステッカーに電話番号を記載し、全戸に配布していただきたい。

A 広く周知する方法を検討したい。

Q 図書館通帳の導入について

A 読書に親しみ、読書の

感動を記録する取り組みとして、読書履歴を自ら記録して目に見える形にすることして、さらに読書への意欲と喜びを推進できる読書通帳の導入について伺う。



迅速な防災情報の伝達を

Q 自動音声応答装置の導入をフリーダイヤルで

A 広く周知できる方法で導入したい

Q 庁舎の検討体制は立ち上がっているのか

A 今、一定の部課等で検討を進めている

浅尾 静二 議員

質問項目

- 1 新庁舎建設の検討について
- 2 自治基本条例（まちづくり基本条例）の制定について
- 3 朝倉市暮らしの便利帳について
- 4 朝倉市の自然を活かしたスポーツイベントについて



Q 新市建設計画の変更の中で新市庁舎の建設について取り上げているが、有利な財源の合併特例債の期限である平成32年度までに新市庁舎を建設する判断に至ったのか。

A 市役所本庁舎は老朽化もしているが、災害時の司令塔として大事な施設である。まずは耐震診断を行い、庁舎の補強ができるのか、それにはどの程度の費用がかかるか把握する必要がある。基礎調査からするべきである。

Q 合併特例債の期限である平成32年度までのスケジュールは厳しいが、今年度の市庁舎の検討体制はどうなっているか。

A まだ検討組織は設置していないが、一定の部課等で検討している。

Q 官民協働事業として「朝倉市くらしの便利帳」が発行された。作成から配送にかかる費用は、すべて広告掲載料で賄われた事業である。広告掲載料が高いという意見があったので担当課に問い合わせると、発行事業者と広告掲載事業者とで契約しているため料金等は把握していないとのことであった。官民協働事業であるならば内容は把握するべきである。またこのような冊子は、市内の事業者ですべきものではないのか。

朝倉市くらしの便利帳について

A 他市でも発行した経験のある会社を選んで発行した。市のお金を使わずに市民が便利になる。そのことについては職員の評価を評価してほしい。



朝倉市くらしの便利帳

市長二期目の抱負について

Q 具体的にどのような事業に取り組むのか。

A 一昨年に豪雨災害に見舞われたこともあり防災対策に力を入れ、他に朝倉農業高校の跡地の活用、TP



鹿毛 哲也 議員

質問項目

- 1 森田市長二期目の抱負について
- 2 人口増への取り組みについて

Q 市長の今後の抱負は

A 多くの課題解決に向けて積極的に取り組む

P交渉の成り行きで変わる可能性のある地域農業の将来展望の検討、庁舎建替・耐震化の検討、人口減少に歯止めをかける対策並びに定住促進対策を重点的に進めて行く。

Q 杷木地域と朝倉地域の消防署の統廃合問題は、二期目で答えを出さないのか。

A 筑前町では西部分署の改築を検討している。平成29年度には改築をする計画がなされている。よって、平成29年度までには結論を出す必要があるので検討している。

人口増への取り組みについて

Q 佐賀県武雄市は官民一体型学級を開設し、その小学校区に移住することを条件に、市外から20人〜30人の児童を募集すると言っている。

いる。朝倉市も教育に力を入れ、このような取り組みを行い、人口増につなげられないのか。

A 武雄市の取り組みは、定住促進や過疎対策も併せて取り組む狙いがあると考えられるが、本市としてはまずは武雄市の取り組みを見ていきたい。



教育の充実で人口増へつなげよう